

2015年5月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2015年5月9日(土) 10:00~16:00

2. 開催場所
中部品質管理協会 研修室

3. 参加者<50音順、敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

井上	出	伊藤	出	梅本	欠	大見	欠	城越	出	杉浦	出	則尾	欠	林	書	三浦	出
牧野	欠	山口	出	横尾	出	舟山	出	雲丹亀	出			和田	休	池田	休	森	休

4. 輪講(輪講書籍:田口玄一論説集第3巻)

節ごとに輪講後、疑問点についてディスカッションを実施

①タグチメソッドの定義:実験計画法は現象を説明するモデルを作る方法。TMIは目標に対して技術を最適化する方法

②最適設計の再現性と直交表の役割:新しいシステム構築のフェーズでは性能を出すことが目標となるが、システム選択をするフェーズではロバスト性を評価すべきであり、どう評価するのが重要

③目標の表現と特性値:下流への再現性のために交互作用は誤差として取り扱うため、制御因子間の交互作用はわりつけない

5. パネルの開閉装置における収納動作の安定

目的/問題点/システムの機能/制御因子・誤差因子についてパラメータ設計シートをベースに議論した。

L18+外側誤差 $2 \times 2 = 72$ 試験の実験計画をたてた。ただし、制御因子について再度洗い出しを検討する

6. アンケート解析

FMEA活用のためのアンケートのMT解析について

解析の結果、有効性に欠ける要因の寄与度が最も高いのは評価点(影響度、発生度、検出度および危険度指数)

影響度については、市場の安全に対する感度の変化に応じて基準を見直すと良いとアドバイスを頂いた

7. プランジャ型ソレノイドの機能について(関西シンポジウム発表内容)

プランジャ型ソレノイドの機能について(その9)

6月開催予定の関西品質工学シンポジウムに向けた発表のリハーサルを行い様々なアドバイスを頂いた本番に向けて報文を修正する

8. 次回案内

・日時:2015年6月13日(土)

・場所:中部品質管理協会 研修室

・輪講担当:大見、テーマ担当:大見、議事録:三浦

・検討テーマ(案)

①関西シンポジウム発表報告

②ブレーキ特性の経時変化対策(続き)